

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05266	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	根寄生雑草被害低減を目指した化学・生物学基盤の構築と応用	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	浅見 忠男 (東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、根寄生雑草に対して種子発芽・寄生促進作用をもつストリゴラクトン (SL) の生合成阻害剤、自殺発芽を誘導する SL アゴニスト、植物ホルモン間クロストークにより SL 機能を制御するエチレンアゴニストなど、寄生を抑制する化合物の創製に取り組むものである。

SL 生合成阻害剤の創製、SL 受容体と受容体阻害剤の共結晶化による結合部位の同定、エチレンアゴニストの創製など防除技術の開発に向けた基盤研究は順調に進展している。

一方で、応募時点では重要な研究目的として、“SL ではなく、その代謝物メチルカーラクトン酸が植物ホルモンの活性本体である” ことの実証を計画していたが、その進捗状況についての報告がなされていない。学術的意義が高い当該計画への取組を望む。